

## 小児一次救急医療に関する課題

- ① 急患診療センター及び急患診療所における患者数の増加への対応
  - ・小児患者数は年々増加傾向にあり、待ち時間が長時間化するとともに、医師一人あたりの診療件数が増加し、医師の疲弊につながっている。
- ② 急患診療所に出務する内科・小児科併診医師の確保
  - ・内科医の専門分化が進み、小児科を併科標榜する内科医の減少や高齢化により、出務医師の確保が困難となっている。
- ③ 一次救急医療体制が手薄となっている時間帯や医療機能における受入体制の構築
  - ・土曜日の午前中は開業医が、19 時からは急患診療センターが一次救急医療を担っているが、午後から急患診療センターが開くまでの、一次救急医療体制が手薄となっている時間帯について、体制の構築が必要となっている。
  - ・外傷等、外科系の小児患者の救急車で搬送先がなく、救急搬送に時間がかかる事例が発生しているため、受入先の確保について検討する必要がある。
- ④ 休日の小児科二次病床の確保
  - ・休日、GW、年末年始において、現在確保している小児科二次病院のベッド数（3施設各1床）を上回る二次搬送が常態化しており、二次搬送先の増設が必要となっている。
- ⑤ 患者のニーズに応じた診療機関の広報、保護者への啓発
  - ・不要・不急の受診者を減らすため、診療の緊急性等の相談に応じる相談窓口の拡充が必要となっている。また、既存の相談窓口（#8000 等）のより一層の周知が必要である。
  - ・患者の症状に応じた医療を円滑かつ適切に提供するため、急患診療センターや急患診療所、二次救急を担っている医療機関が診療対象としている疾患や、症状について、市民、医療機関を含めた広報、周知が必要である。
  - ・保護者の育児不安の解消や、小児救急医療機関への適切な受診を促すため、かかりつけ医の重要性や子どもが病気になったときの適切な対応など、救急医療に関する知識の普及啓発を図る必要がある。